

いよいよ年末をあと数日に控えて、皆様方にはお元気にてご活躍の事と拝察いたしております。今年もまた苦勞と喜びを繰り返しながら、光陰矢のごとく過ぎ去って行った歳月の早さに驚かされております。

今年は大不況で始まり、年末はデフレスパイラルと言う極めて悪循環な経済の中でこの『まち』の活性化のために皆さんと一緒に多くの事業、イベントに取り組みさせていただきましたが、皆様には率先してご参加下さり、すべての諸行事を成功裡に達成させていただきました。改めて厚く御礼申し上げます。

悪条件の中での達成感、自信が生まれ、連帯感という太い絆を作ったと思っております。今!! 日本のまちづくりで最も求められているものは、それぞれの地域社会、業界、組織に良きリーダー、人材を育てることであり、自己犠牲心を持った郷土愛と連帯感であります。

今年NHKが何故『坂の上の雲』・『龍馬伝』を選んだかが納得できる思いです。

先日鈴木市長さんから君津の会議所は千葉県内では1～2位を競う会議所だ!とお褒めをいただきました。

来年は今まで経験のない不透明な困難な年だろうと予測されておりますが、私達の君津市は基幹産業の君津製鐵所もすでに100%近い稼働となったようであります。首都圏4千万人の食糧を養う広い沃野があり、心身を休養させるには最適の山野、湖水があります。

房総への観光人口4千万人の交通の要衝であります。

今、日本中でこれだけ好条件の揃っている『まち』は他には無いと思っております。

まさに天の時、地の利であり、あとは皆様が作る『人の和』と言う郷土愛、連帯感であります。この君津の天恵の財産をどう生かすかであります。

不況、デフレを恐れるのは先が見えないから起こる不安感であり、本音で話す親友がいない孤独感が生まれるものですから、それぞれの地域、商店会によきリーダーを育て、良き隣人、友人を持つことが出来れば人は前向きに仕事出来るものです。

この事は転業漁民として40余年で苦勞の連続の中で生きて来た私の経験から得た教訓でもあります。

日本が戦後荒廃した時、私の家は農水産の家でありながらも食べ物に困った時代に比べればマダマダであります。

私達が海を追われ、陸に上がったカッパ達が全く未知の商いに挑戦した40年前の苦勞と比べてもマダマダだと私は思っております。

こうしたいくつかの時代に共通して言える事は、どん底にあっても、常に夢を失わない事であり、挫折感を味わいながらも希望を捨てない事であり、

こうした気持ちを支えてくれるものは良き家族であり、良き友人を持った事であり、

終わりにになりましたが女性会、青年部の大活躍に厚く感謝申し上げます。

1月8日の賀詞交歓会には皆様お誘い合わせて多数ご参加下さる様お待ち致しております。

『乱世にチャンスあり』であります。それではお元気で、良いお年をお迎え下さい。